



発行・京都障害者スポーツ振興会

題字 芝田 徳造

「雪あそびのつどい」

「再出発・再起動」 「原点に戻って」

中村 芳道

2月11日、「雪あそびのつどい」を京都市野外活動施設「花脊山の家」で行いました。今年も、これまでのように「スキー・雪あそびのつどい」ではありません。また、行き先も滋賀県マキノスキー場ではありませんでした。経過については、本学会報「つどい」339号・2010・4月号で水谷副会長が「スポ振ルネサンス(2)」で述べられている通りです。準備作業で検討したことは、「原点に戻って考えること」でした。京都市からの委託事業名は「重度障害者スポーツ講習会開催事業」であり、重い障害のある人々にもスポーツ活動を促すという目的で実施され、とりわけ、重い障害のある人々が日常的に取り組みにくい雪上でのスポーツ活動を体験してもらったことを基本に進められてきました。当初は、雪あそび・そりあそびがメインで実施されていましたが、30年を越える取り組みの中でスキ

は、スキーをする人が8割を占めるようになりました。また、日帰りの事業として、参加者もボランティアも体力的に厳しい要件(遠方の滋賀県湖北にあるスキー場までの所要時間や早朝の集合・遅い解散時刻など)は、重い障害のある人々には、たいへんではないかという疑問でした。この2つの課題を検討した。今年も、「スキーではなく雪あそび(そりあそび)」を「近場で雪あそびができる所」とし、「雪あそびのつどい」と称して「花脊山の家」での実施としました。募集にあたっては、継続して参加していただいている方に、事務局から手紙で「スキーから雪あそび(そりあそび)に変更します」とのお知らせをいたしました。今年の参加者の特徴は、「スキーができないのは残念だけど参加します」という継続参加の方が多く、重い障害のある方の参加が増えました。と「そりあそびが楽しいよ

と誘われて」「花脊山の家」だから安心して申し込みました」との返答でした。当日は、朝から雪模様になりました。積雪が6cmもあり、近年になく雪には恵まれました。集合時間は午前7時30分、バス乗車時間は1時間30分でした。昨年比べ集合時間が1時間遅くなったも、バス乗車時間が1時間短縮でき、現地での活動時間は同じだけ確保できました。加えて解散時刻も早くなりました。午前の活動はそり滑りです。ふかふかの雪道をわくわくしながら歩き、そり滑りの場所へ着きました。コースは、緩斜面の多く広々としたマキノスキー場に比べ、かなり急で距離は短くスピードをたっぷり味わえるロケーションでした。途中でコース整備もして、緩やかにしながら午前中たっぷりとそり滑りを楽しみました。昼食は、山の家の食堂で「ごぼうご飯とうどん」がメインで、サブメニュー(サラダ・コロッケなど)はバイキング形式でした。広々とした食堂でお腹いっぱい、ゆったりいただきました。

午後からは、みんなで「的当て雪投げゲーム」「そり滑りパン食いゲーム」をいたしました。その後、今回初めて企画で「もちつき」をしました。準備は、山の家スタッフの方をお願いして、我々ボランティアも参加者も一緒に楽しみました。山の家・本館でのほっこりタイムも参加者には好評で、一日をゆったりし過ごすことができました。帰りのバスの中では、一人ひとりの感想を発表してもらいました。「そりが楽しかった」「また来年もきたいです」「山を家の施設がよかった」など、たくさん楽しかった話をしていたいただきました。

4月、実施するかしないかの一からの出発だった「雪あそびのつどい」でしたが、これまで3年以上続いてきた事業の本格的な「再出発・再起動」の機会になりました。来年、京都障害者スポーツ振興会は、結成40周年を迎えます。「40年」を振り返り、今、京都の障害者スポーツを進めていく上で、我々の会が何をすべきかを考える節目にきています。その一つとして今回の「雪あそびのつどい」の事業は、「原点に戻って考えること」で大切なことが見えてきました。これから「原点」を忘れず、「今」を考え「未来」に向かって取り組んでいきたいと思えます。参加者のみなさん、ボランティアのみなさん、ありがとうございました。

行事予定	3月	27(日)	城陽障害者スポーツのつどい	サン・アビリティーズ城陽	来月のつどいは 4 / 10 第2日曜日
	4月	9(日)	フライングディスク講習会	京都市障害者スポーツセンター	
			スタッフ全体会		
		12(日)	丹波障害者スポーツのつどい	丹波自然公園	
		17(日)	障害者水泳のつどい	伏見港公園プール	
		23(土)	京都障害者フライングディスク大会	府立体育館	
24(日)	城陽障害者スポーツのつどい	サン・アビリティーズ城陽			
京都障害者スポーツ振興会ホームページ				TEL/FAX075-712-7010	
http://web.kyoto-inet.or.jp/people/spo-shin/ (2011年2月27日に一部更新)					

スボ振ルネサンス (35)

〜心でつなぐ活動を〜
京都障害者スポーツ振興会

副会長 水谷 裕

先月の20日、高円宮妃殿下の御臨席のもと、「第22回全国車いす駅伝競走大会」が行われました。当日は、心配しておりました天候にも恵まれ、大会史上類を見ない暖かい小春日の一日でした。全国から29チーム、258名の選手、役員の方を迎えて、盛大に開催し、選手の皆さんによる熱い戦いが繰り広げられ、早春の都大路を疾風のごとく駆け抜けました。レースについて言うと、気の毒というか、残念なことが2つありました。ひとつは、福井県の選手が前夜に宿舍のホテルで入浴中に火傷をしてドクターストップがかかり、選手の数が足りなくなつてオープン参加になつてしまつたこと。全員が練習を重ね、せっかく京都まで来たのに、たつたひとりのちよつとしたアクシデントによりチームとして入賞争いに絡めなく

なつたことは、チーム全員の心に負担を強いたのではないでしょう。そして、もうひとつは、3連覇のかかつていた「京都Aチーム」が中継点で、大会車両を避けようと後ろへ下がってきた陸協の審判員と接触し、中継区間を助走し始めていた次の選手がタッチできなかつたためにタッチしに戻り、タイムを大きくロスするというアクシデントに見舞われ3位に入ることもかなわなかつたことです。結果的に「京都Aチーム」は、前半の遅れを後半でガンバリ克服し、5位入賞でした。「京都Aチーム」が優勝を逸した要因のひとつとして、中継点でのアクシデントを前述しました。が、何よりも言えることは、駅伝の持つ面白さというか、難しさにあると思います。駅伝は、単独で行う競技とは違い、複数の選手個々の競技力、練習量、体調管理等、コンディショニングのバランスの上で成り立つもので、最高のパフォーマンスを大会

で出せるよう本番に向けて照準を合わせなければならず、選手たちのどの部分かがレベルダウンしても順位に影響してくるものなのです。今年の「京都Aチーム」は、その点が十分ではなかつたように思います。一方、「京都Bチーム」は、目標としていた1時間を超え、12位に入りました。「京都Bチーム」が、タイムを縮め、目標タイムを切つて順位を上げられたことはチーム全員の調整が揃えられた成果と言えるでしょう。全国から参加をしてくるとどのチームも、限られた練習環境の中で工夫し、努力して、全員が同じ目標と意識を持つて取り組み、上位を目指して挑戦してきます。少しでもコンディションが崩れれば、他のチームに追い抜かれ、栄冠を得ることはできません。車いす駅伝の本拠地というべき私たちの京都において、練習場所の確保は言うに及ばず練習時間の確保等々、生活環境な

どさまざまな意味を含めて練習環境が十分であるとは言えません。京都障害者スポーツ振興会としても、車いす駅伝の選手たちが、安心して心おきなく練習に専念してもらえ、環境の構築を推進していきたいものです。突然に話は変わりますが、一昨年来、時折体調の不調を口にされていた川面会長が、今年に入つてから深刻な状態だといふことで辞意を表されたのですが、芝田、内山両顧問の指導をいただき、副会長の指導を開き、辞めてもらうのではなく、良くなるまで当面の間休養していただくことになり、その分、会長代行を置くものの副会長全員でサポートしながら、振興会活動を進めていくことになりました。皆さんのご協力、ご支援をよろしくお願いたします。



第22回全国車いす駅伝 記 録
平成23年2月20日

福井	大阪	愛知	仙台	三重	熊本	埼玉	愛知	鹿児島	兵庫	沖縄	静岡	山口	名古屋	長崎	大分	茨城	京都	横浜	宮崎	岡山	高知	福岡	長野	京都	東京	兵庫	大分	大阪
B	B	B	市		A	A	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	A	A	A	A
放棄	1時間13分44秒	1時間12分55秒	1時間10分36秒	1時間6分27秒	1時間4分45秒	1時間3分22秒	1時間2分30秒	1時間2分14秒	1時間1分46秒	1時間1分29秒	59分48秒	59分29秒	59分34秒	58分46秒	58分10秒	57分55秒	57分6秒	55分14秒	55分9秒	53分18秒	49分57秒	49分0秒	48分47秒	48分46秒	48分21秒	48分4秒	47分17秒	